SHITARA DAM

設楽ダムだより

第143号
未来につなぐ
特集号
2022.8

Connect to the future

天然記念物ネコギギ

世代を超えて受け継がれてきた地域の自然を大切にしたい。

――愛知県立田口高等学校　理科部の皆さんに聞く

田口高校理科部の皆さんを招いて環境学習会を行いました。場所は、道の駅したらの対岸から寒狭川を少し下ったところにある田内系統保全施設（令和4年3月完成）。寒狭川に生息する国の天然記念物「ネコギギ」について、ダム建設の影響に対応し、保全するための施設です。町の将来を担う高校生の皆さんにネコギギ保全の取り組みを見てもらいながら、地域に生息する生き物のことや人と川とのあり方、町の未来像についてお話を伺いました。

田口高校での学校生活ではいろいろなことにチャレンジ

愛知県立田口高等学校は、北設楽郡でただひとつの高校です。生徒数が少ないので、先生との距離が近く、なんでも相談できるし、きめ細かくサポートしてくれます。生徒一人ひとりの個々の持ち味を発揮できるように、そして心を育てることを大事にしてくれる学校だから、自分たちがやりたいこと、チャレンジしたいことを熱心に後押ししてくれる雰囲気があります。おかげで充実した高校生活が送れています。

私たちが所属する理科部は、現在2年生3人、1年生1人の計4人。設楽町内でのフィールドワークをはじめ、植物や水生生物の調査のほか天体観測など、いろいろな活動に取り組んでいます。

左から関谷さん、佐々木さん、伊藤さん。水に親しんで育ったので川に対する思いも強く、上下流交流についても関心を持たれていました。

ネコギギ保全の取り組みについて、設楽ダム工事事務所から説明を受ける理科部の皆さん。

田内系統保全施設内にある水槽を見学。水槽の水は、循環させたり、地下水をかけ流したりすることで、水温、水質を管理しています。

昨年度は、地元を学ぶ活動の一環として津具金山へフィールドワークに出かけ、奥三河で金がとれた理由や金山の作業について、学んだことをレポートにまとめて発表しました。

今年度の活動テーマは、ろ過器づくりです。水は生活に欠かせないものですよね。ろ過する方法を知っていればいざという時に役立つのではないかと思って、このテーマに決めました。

ろ過器づくりといっても、よく目にするペットボトルを使ったものなんですが、水をろ過する材料に、よく使われる木炭や砂ではなく、あまり試したことのないものを使って検証してみようと話し合っているところです。

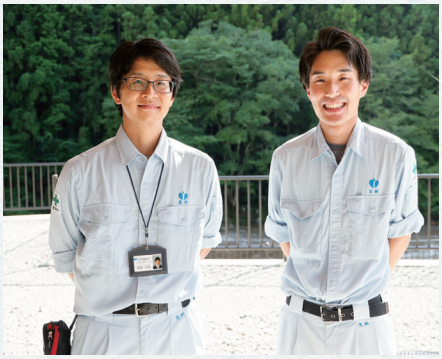
地域固有の種を大切にすること

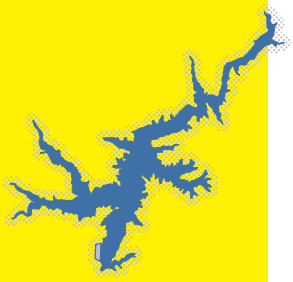
ネコギギのことは、昨年うちの学校の文化祭で設楽ダム工事事務所が紹介していたのを見たときに初めて知りました。でもそんなに詳しくは知らなくて、「ネコギギのひげは何本あるか知ってる？」と聞かれて、理科部なのに

いであ株式会社 南野洋孝さん、生駒歩さんに聞く

田口高校の生徒さんにネコギギの生態や飼育繁殖の取り組みについて説明しましたが、興味を持ってくれたようで、この取り組みに一層やりがいを感じました。飼育繁殖の取り組みがスタートしてから、最初は手探り状態で分からないことだらけでした。試行錯誤を重ね、結果を安定して出せるようになったこのタイミングで、地元の若い人たちにネコギギの生態や生息環境について伝えられるのはうれしいことです。

これからも設楽町の方たちの興味を広げるお手伝いができたらと思っています。

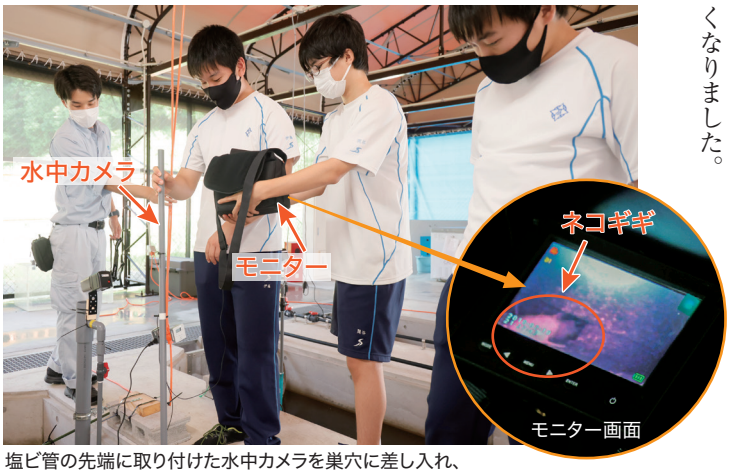

左から南野さん、生駒さん。ネコギギ保全に関わる業務に携わる技術者のお二人。



答えられなかったです（笑）

今回、ネコギギの生態や保全の取り組みについて話を聞き、ネコギギのことをもっと知りたいと思いました。部活でネコギギを飼育して繁殖させている高校があることも知って驚きました。また、生まれた卵が稚魚になる確率や、その確率も飼育施設と川とで異なること、川では他の生物との関係で増えすぎても良くないことを教えてもらい、勉強になりました。

保全施設の水槽では、ネコギギが住んでいる石の隙間に水中カメラを差し入れて手元のモニターで観察したり、餌をあげたりする体験ができました。オスのなわばり行動は激しいですね。何度もカメラに突進されてびっくりしました。短時間の体験でしたが、自分の住んでいる地域にネコギギという天然記念物が生息していることが実感できて、大切にして守りたいという気持ちが強くなりました。



塩ビ管の先端に取り付けた水中カメラを巣穴に差し入れ、モニターでネコギギの姿を観察。意外と素早く、見るのに一苦労です。

私たちが大人になっても

私たちは設楽町で育って、川に網を張り、水中に潜ってアユを獲ったり、小さな滝から飛び込んだりして、きれいな川が身近にあることが当たり前と思っていました。ネコギギもきれいな川でないと生息できないですよね。これからもネコギギのような魚が住みやすい、そして私たちが大人になっても、みんなが遊べる川であってほしいです。

それに、山から下流に水が流れているという視点も大事なんじゃないかなと思いました。川を通じて上下流はつながっていますよね。上流から水が流れるからこそ下流の地域も発展できるし、水がきれいなら快適に暮らすことができる。だから上流の川がきれいで豊かでないといけないんだと改めて思いました。

一方で、上流に位置する設楽町では過疎化が進んでいます。下流の地域やいろんな地域からもっともっと、人がたくさん来て、集まれる場所もできて、賑わいのある町になってくれたらうれしいと思っています。

ネコギギの餌やりを体験。冷凍の赤虫を水に溶かして水槽へ流し込みます。ネコギギの白い影しか見えていませんが、きっと食べてくれているはずです。

田口高校理科部顧問 深井 遼先生 にインタビュー

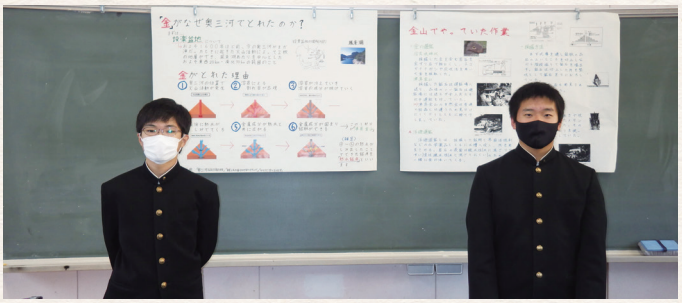
部員たちには、自ら問題意識を持ち、調べ、解決する知的好奇心を発揮してほしい

田口高校の理科部の顧問として、4名の部員といっしょに活動しています。今年度のテーマはろ過器づくりですが、代々の活動内容は幅広く、その成果をまとめたレポートは毎年の文化祭はもちろん、全国高等学校総合文化祭で発表したいと考えています。

今回、ネコギギの保全施設を見せていただきましたが、取り組み内容にも大変感銘を受けました。部活はもちろんのこと、授業でも活用させていただけたら、生徒たちにとっても勉強になると思います。

このように学校だけでなく、外部の機関と連携することで活動の幅が広がりますし、通常の授業ではできないことも可能になります。というのも、顧問として教師として、部員に期待することは、周りの身近なものに興味や好奇心を持って探求してほしいということだからです。

私は設楽町の出身ではなく、赴任したときこの町の自然、山、清流の川の素晴らしさに感動しました。ここが故郷の部員にとってはあって当たり前のものなんですけど、こんな自然環境が身近にあることの貴重さを感じ取ってほしいと思います。



田口高校理科部の活動の様子。理科部の活動は多岐にわたります。上の写真に写るレポートは、昨年度に実施した津具金山のフィールドワークについてまとめたもの。

毎年秋に開催する田口高校の文化祭では、地域の皆さんに設楽町の環境の素晴らしさを知っていただく場を作っています。ぜひ文化祭へお越しください！

ダム情報

川にあつまれ！

ネコギギ見つけたよ！

天然記念物のネコギギは、明るい昼間に泳ぎ回ることは少なく、石の隙間（すきま）に身を寄せています。このため、川にいるネコギギは、なかなかその姿を見ることができません。

そんなネコギギを、こどもたちに見て、知ってもらいたいとの思いから、7月24日（日）に新城市布里にて開催された寒狭川下漁業協同組合主催の“川にあつまれ”にお邪魔して、出張展示を行いました。

石の隙間でじっとしているネコギギを見つけては、「見つけたよ！」「いたいた」「かわいー」「こんなに近くで見たことなかった」など、にぎやかな声があがっていました。

その他にも、アユが藻を食（は）む姿が見られるように工夫した水槽を用意したところ、じーっと観察していた次の瞬間、素早く動いて石に口をあてるアユの姿に「あっ、食べた！」「いま！今」など歓声があがっていました。

今後も、川の中に住む生き物たちの魅力を見て、知って、感じていただけるようなイベントを開催していきます。またの機会をお楽しみに！

設楽町の魅力再発見

「暑い夏は涼しい場所でキャンプをしたい！」と思い立ち、設楽町津具の「つぐ高原グリーンパーク」にキャンプ初心者の二人で行ってきました。

家族連れや友人同士など大勢の人で賑わっている中、宿泊するキャビンに着くと、まずBBQの準備に取りかかりました。大苦戦の末、ようやく炭に火をつけることができ、いよいよBBQ開始！田口の塩鶏やソーセージを味わうだけでなく、今回は憧れのキャンプ飯にも初挑戦しました。

夜は焚き火を囲んで、普段しない話を語り合ったり、たわいもない話をしたりと、とても楽しく幸せな一時でした。

夜遅くには、満天の星を観ることができ、壮大な星空に思わず見入ってしまいました。（なんと流れ星まで観ることができました！）

朝が弱く、普段は出勤ぎりぎりまで寝ている私たちですが、この日の朝は気持ちよく目が覚めたので、早朝から周辺を散歩しました。朝は涼しく、空気がとても澄んでいて、清々しい気持ちで一日を始めることができました。

キャンプの最後はパターゴルフをして楽しみました。二人とも久しぶりでスコアはイマイチでしたが、互いに譲らない白熱した勝負となりました。

忘れ物をたくさんするなど失敗ばかりのキャンプでしたが、その失敗も含めてとてもいい思い出となりました。何をするにも新鮮で、とにかく楽しく、充実の二日間でした。キャンプ道具については各種レンタルすることができますので、普段キャンプに行かれない方も、この夏行かれてみてはいかがでしょうか？

国土交通省中部地方整備局 設楽ダム工事事務所　HP https://www.cbr.mlit.go.jp/shitara/

新城庁舎
〒441-1341 新城市杉山字大東57
総務課 TEL (0536)23-4331 FAX (0536)23-4401
用地第一課・用地第二課 TEL (0536)23-4387 FAX (0536)23-4408

設楽庁舎
〒441-2301 北設楽郡設楽町田口字川原田1-2
工務課 TEL (0536)62-1290
調査課 TEL (0536)62-1292 FAX (0536)62-1291
工事課 TEL (0536)62-1293